

⑫ 公開特許公報(A)

昭62-136952

⑬ Int. Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 昭和62年(1987)6月19日

H 04 M 3/42
1/00Q-8125-5K
A-7608-5K

審査請求 未請求 発明の数 1 (全4頁)

⑮ 発明の名称 電話呼び出し中の自動発声方法

⑯ 特 願 昭60-277536

⑰ 出 願 昭60(1985)12月10日

⑱ 発 明 者 川 口 雅 人 調布市調布ヶ丘3-13-1

⑲ 出 願 人 川 口 雅 人 調布市調布ヶ丘3-13-1

⑳ 代 理 人 弁理士 三澤 正義

明 細 書

1. 発明の名称

電話呼び出し中の自動発声方法

2. 特許請求の範囲

(1) 送受話回線に選択的に接続し得る自動発声手段を設置し、発信側電話端末機の送話器が持ち上げられた場合に、自動発声手段を送受話回線に接続し、受信側電話端末機の受話器をその電話機本体から外した場合に、自動発声手段と送受話回線との接続を断つ如くしたことを特徴とする電話呼び出し中の自動発声方法。

(2) 前記自動発声手段が自動電話交換器側に設けられている特許請求の範囲第1項記載の電話呼び出し中の自動発声方法。

(3) 前記自動発声手段が電話機側に設けられている特許請求の範囲第1項記載の電話呼び出し中の自動発声方法。

3. 発明の詳細な説明

[発明の技術分野]

本発明は、電話呼び出し中の自動発声方法に関するものである。

[発明の技術的背景とその問題点]

現在、一般的に使われている電話交換器の1つである電子交換器は、発信者が送話器を持ち上げたときに発信者の送話器に連続信号をながし、つぎに発信者が電話機のダイヤルを回すと、発信側電話機から送りだされる断続電流が走査装置に流れ、走査装置が加入者回線に流れる電流状態を時分割的に走査して中央制御装置に伝える。この場合、半固定記憶装置が電話番号の局番に従って、呼び信号がどの中継線を使うかを判断して中央制御装置に伝える。その後、信号分配装置が中央制御装置からの指示を加入回線または中継線および通話路網の各所に分配するから、中継線等を流れた信号電流は中継局を介して受信者側電話端末機に送られ、いわゆる通話状態となる。

このようにして、通話可能になったとしても、受信側の者が、受信口に出るまでの時間が非常に長いことがある。この場合、送信者は何もするこ

とができないばかりか、場合によってはイライラ感を抱き、ひいてはその感情が通話中の音声に反映されて、相手方を不愉快な思いにさせることになってしまう。

そこで、これが解決策が強く望まれていた。

〔発明の目的〕

本発明は、この事情に鑑みてなされたもので、送話者が電話機から送話器を外した後、受話者が電話口にてるまでの待ち時間を利用して音声を発生させる自動発声方法を提供することを目的とする。

〔発明の概要〕

上記目的を達成するための本発明の概要は、送受話回線に選択的に接続し得る自動発声手段を設置し、発信側電話端末機の送話器が持ち上げられた場合に、自動発声手段を送受話回線に接続し、受信側電話端末機の受話器をその電話機本体から外した場合に、自動発声手段と送受話回線との接続を断つ如くした電話呼び出し中の自動発声方法にある。

されており、音声の内容は、例えば音楽、広告等、発信者の気持を少しでも和ませられるものを選択する。

このような構成のもとにおいて、発信者が送話器を持ち上げたときに加入者線に流れる信号を走査装置1が検知し、その信号が中央制御装置2に送出されたときに、中央制御装置2は音声回線8を通話路網4中の発信側回線に接続することを指令する。この結果発声手段によって生じた音声信号は音声回線8及び通話路網4を介して発信側電話機に至り、この音声信号が発信側電話機の受話器で音声化されて発信者の耳に入ることとなる。

つぎに発信者が受信者側電話番号に合せてダイヤルを回すことにより、電話交換器による話中試験を経て信号が受信側電話機に送出されることになるが、この場合でも音声回線と発信側回線とが接続されているので、発信者は音声を耳にすることができる。なお、受信側の者が話中の場合、話中信号が発信側電話機に伝送されるので、発信者は音声とともに話中信号を耳にすることができて、

〔発明の実施例〕

以下図面を参照して本発明を具体的に説明する。

第1図は、自動発声ユニットが電話交換機側に設けられている本発明の一実施例を示すブロック図である。1は加入者回線に流れる電流状態を中央制御装置2につたえる走査装置であり、この中央制御装置2は該装置によって動作させられる諸装置に必要な指示を与えて動作させるものであり、たとへば信号分配装置6に対して必要な指令を与えて通話路網の各所に信号電流を分配させる。3は一時記憶装置、5は半固定記憶装置であり、呼び信号がどの中継線を使うか等を判断するために用いられるものである。これらの技術については公知に属するのでその詳細は省略する。7で示すのは、自動発声ユニットであり、該ユニット7には、その内部に発声手段(図示せず)が設けられている。この発声手段はテープレコーダ等のアナログ信号系のもの、または音声ROM等を用いたデジタル信号系のものを適宜使用するものとし、これらの発声手段はエンドレスのものとして構成

相手側が話中であることを認識できる。

そして、受信側の電話機の受話器が持ち上げられたときに生じる持ち上げ信号は走査装置1、さらに中央制御装置2に入るが、この持ち上げ信号を受けた中央制御装置2は音声回線8と発信側回線との接続を解除することを指令する。つぎに中央制御装置2によって発信側回線と受信側回線とが接続され、発信者と受信者との通話を可能にする。発声手段はエンドレスのものとして構成されているから音声回線と発信側回線との接続が逐一おこなわれることによって多数の発信者が同時に音声を耳にすることができる。したがって、発声ユニットは同一局内に一台設置すれば足りる。

第2図は本発明に係る他の実施例を示すブロック図である。17は発信側電話端末機に設けられている自動発声ユニットであり、該ユニット17には、その内部に開始信号(発信者が送話器を持ち上げた時に送受信回線に流れる信号をいう)検出回路17A、送受話回線接続手段17B及び発声手段17Cが設けられている(第3図参照)。

該開始信号検出回路 17A は、発信者が送話器を持ち上げた時に送受信回路（第 2 図示の L1、L2）間に流れる信号を検出するためのものであり、送受信回線接続手段 17B は、開始信号検出回路 17A からの検出信号を受けて、発声手段 17C を送受信回線に接続し、受信者が受信側電話機の受話器を持ち上げたときに生ずる信号によって発声手段を送受信回線から断つごとく、それぞれ適宜手段をもって構成される。18 は適宜の電話端末機で、この技術については公知に属するのでその詳細は省略する。

かかる構成において、発信者が送話器を上げたとき、自動発声ユニット 17 に備えられている信号検出回路 17A が L1、L2 間に流れる開始信号を検出し、送受信回線接続手段 17B が発声手段 17C を始動させる。この発声手段 17C によって生じた音声信号は、送受信回線を介して発信側電話機に伝送され、受信側の者が受話器を持ち上げるまでの間、その音声信号が発信側電話機の受話器で音声化されて発信者の耳に入ることとなる。

る。

そして、受信者が受話器を外したとき、上記送受信回線接続手段 17B が受信側受話器の持ち上げられたことを検知して、発声手段 17C を送受信回線から断つとともに、発声手段の動作を停止せしめることによって、発信者と受信者の通話が可能となる。なお、受信側の者が話中であることは、話中信号が発信側電話機に伝送されることによって認識可能である。

本発明は図示実施例に限定されるものではなく、その要旨の範囲内で種々変形実施し得るものである。

〔発明の効果〕

以上説明した通り、本発明によれば、音声発生ユニットから流れる音楽等を耳にすることができ、呼び出し時間が長いことも苦にならないという効果を奏する。

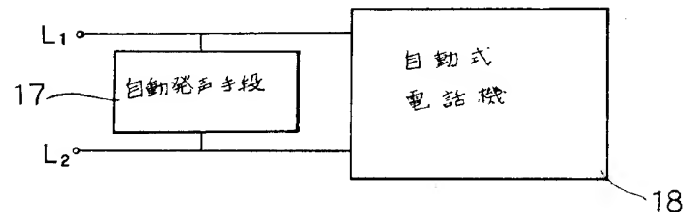
4. 図面の簡単な説明

第 1 図は自動発声ユニットが電話交換器側に設けられている一実施例を示すブロック図、第 2 図

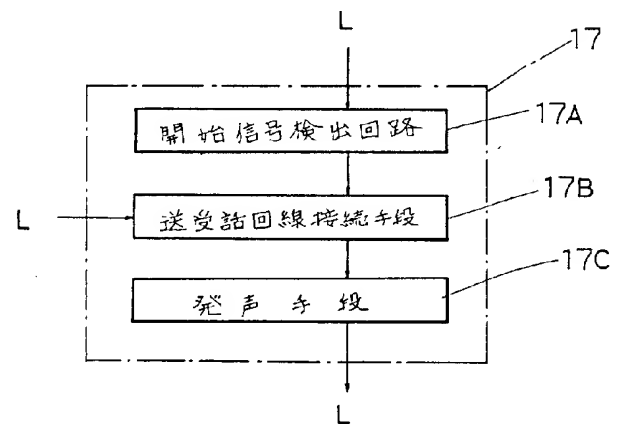
は自動発声ユニットが発信側電話端末機に設けられている他の実施例を示すブロック図である。

7. 17…自動発声ユニット

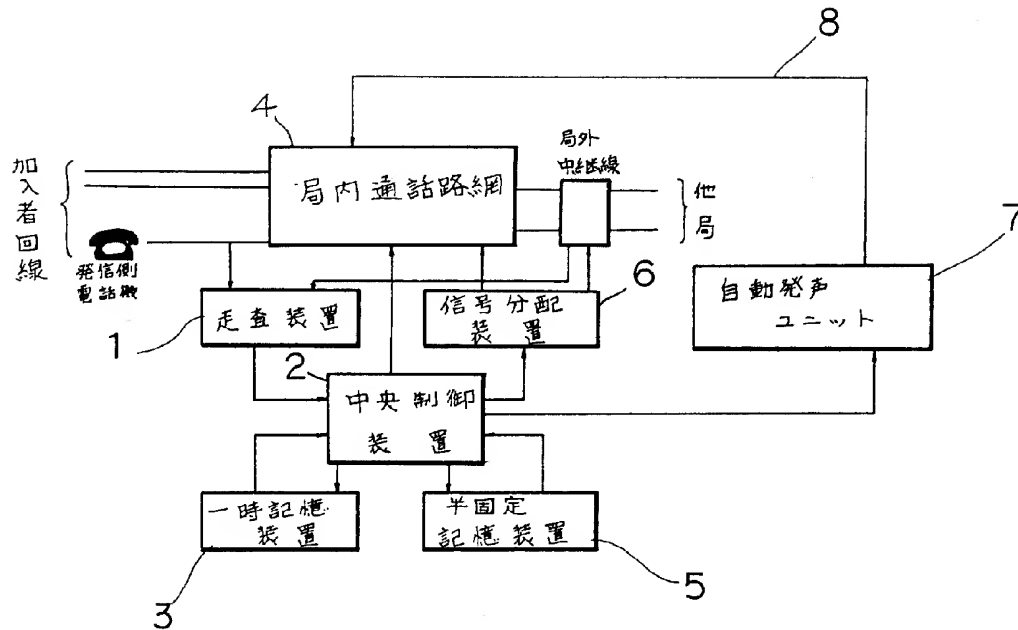
代理人 弁理士 三 澤 正 義



第 2 図



第 3 図



第 1 図

手 続 補 正 書 (方式)

昭和61年3月26日

特許庁長官 殿

1. 事件の表示
昭和60年特許願第277536号
2. 発明の名称
電話呼び出し中の自動発声方法
3. 補正をする者
事件との関係 特許出願人
住 所 東京都調布市調布ヶ丘3-13-1
氏 名 川 口 雅 人
4. 代 理 人
住 所 東京都新宿区西新宿7-20-14
大 塚 ビル 2 階
TEL 03 (361) 8668
氏 名 〒160 弁理士 (8141) 三 澤 正 義
5. 補正命令の日付
昭和61年2月25日(発送日)
6. 補正の対象
明細書の図面の簡単な説明の欄
7. 補正の内容
明細書第9頁第2行目「である。」を削除し「、
第3図は第2図で示す自動発声手段17の内部ブロッ
ク図である。」を挿入する。

